

勇気は恐れであると、その祈禱は言っている。

今日、私たちは王なるキリストの降臨を祝う。拝読する『誠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリスト』（黙示録1:5）。

地上の王たちの支配者、私たちが目にした玉座のイエス、これらのすべての絵から想像するは、王にふさわしく、全能であり、威光ある姿である。歴史をたどると、帝国の着飾ったイエスをスライドショーで上演できる。ピザンティウム（東ローマ帝国）玉座のイエス。世の支配者のロープで着飾ったイエス。イエスは金で飾られ、君臨している。そして世の勤めを統制する。私たちはイエスを王として見る。

しかし今、注意しよう。今、注意するのだ。『人に惑わされないように気をつけなさい』。
(マルコ13:5)

なぜなら次のステップで、王や国家の支配者はそのように行動すべきと思うかもしれない。王たちは、華麗な衣服で着飾るべきと思うかもしれない。近付き難い玉座に座り、世のすべてを支配すべきと思うかもしれない。王たちは、国を治め、君臨し、すべての被造物を支配すべきと信じているかもしれない。しかしこの玉座におられるイエスは、愛しなさいを命じたイエスではない。

王なるキリストの降臨は、1920年に祝祭（降臨節）として確立された。祝祭はローマ教皇によって宣言され、今だ第一次世界大戦後の混乱期であった。その時、世のすべての支配者たちは、狂気になったかのようにであった。世の支配者たちは、戦争では兵隊を使い捨ててプラスチックのように酷使して捨て去った。世界は再建が必要とされ、癒しが必要とされているようであった。世の支配者たちは、人間が人々を管理する法を制定するのに忙しく、その狂気は永遠に続くかのようにであった。アジアやアフリカでは、ヨーロッパ植民地主義が轟いていた。ドイツはもう一度の世界戦争の準備を整えた。

そして教会は言った。今、注意しなさい、今、注意しなさい。

玉座と権力のため、イエスが存在されたのではない。人々の上に君臨するため、イエスがこの世に来られたのではない。支配のため、イエスがこの世を救われたのではない。

イエスは王位のために存在されたのではない。イエスの権威は、また違った権力である。
イエスは愛の権力である。権力との関連。イエスは人として存在された。
イエスは空虚さ(self-emptying) から解放された。

空虚さ、あるいは神聖放棄(kenosis) は、自己の人間の意志を放棄している。
エゴで固められ、自分の望み、懇願、欲望で占められた人間の意志は放棄すること。
放棄すること。そしてかつて意志が存在した空虚さの空間に、神のご意志が満たされる。
神のご意志—神はあなたを愛される—で満たされるのを想像しよう。
励まされ、活気に満ち、愛され、神のご意志が満たされる。

空虚さとは、神に満たしていただくため、自己の欲望を放棄することである。
それは恐れさせることでもある。1920年代の詩は「勇氣は恐れであるとその祈禱は言っている」(Katie Wilson Baker)と読んでいる。祈りをする時であり、違った道で生きて行く。

今日、立ち上がろう。異なる臨在の愚かさを祝うのだ。異なる王。常に敵と思っていた隣人を愛するルール。神を愛する掟。神は百合や雀を愛される。

今日は、すべての気候関係者の国連会議(COP26) が閉会した1週間後である。
(気候が) 異常となった世界の支配者、王、首相、大統領が集結した、一週間後である。
太平洋に島々が洪水になり、メキシコの環境保護論者が殉教している。
アフリカ人は飢えており、BC州は嵐になる。私の父は、私の家で安全にしている。
父は、道路が修復されるまで家に帰ることができない。前例のない雨が地面を崩壊した。
そこは山火事と熱気ドーム(heat domes)で木々が失われた。

今日、私はCOP 最終案を読んだ。裕福な国家が公約を骨抜きにして、援助を押し返した。
援助は本当に理に適ったものだ。“援助”とは、自分たちの廃棄物と誤った管理に対して
真に責任を取ることである。

今日、私が見たのは、支配者が神の被造物を救済する機会を捨て去ったことだ。
私が見たのは、権威ある服装で着飾った人々が国際舞台で玉座を占め、すべての力を行使
して、注意深く自分たちの利益を約束させる位置を得たことだった。

今日、すべてのイエスの弟子たちに告げさせよう「今、注意しよう。今、注意するのだ」。
『人に惑わされないように気をつけなさい』。

なぜなら、玉座によって惑わされると、私たちは力がないと思ってしまうかもしれない。

しかしイエスは弟子たちに、彼らに力がないとは決しておっしゃられなかった。
イエスは弟子たちに権限を与え、玉座にあふれる世界の王たちや、権力のローブを着た
帝国に彼らを送り出された。しかしイエスは弟子たちが王になるために送り出されたので
はない。イエスが従者をこの世に送り出されたのは、癒し人^{びと}や教師となるためである。
イエスの従者がこの世に送り出された時、イエスは彼らに『この家に平安があるように』
(ルカ10:1-23)と始めに告げられた。

もしすべての被造物に何かを告げるなら—この家に平安があるように。

しかしそれなら、私たちはどのように癒しの働きに向かうのか？

イエスの弟子として私たちは、多くが破壊された世界でどのように教えるのか？

被造物を議論しているイエスの弟子たちの間で私は怒りを聞く。私は怒っている。
イエスの弟子たちは、すべての玉座にいる世の王たちに対して怒りの力を振りかざす。
イエスの弟子たちは激怒している。彼らは先頭に立って主張し、抗議し、市民の抵抗に
関わり、刑務所に入り、正義の目的のために生活を失っている。
明確にしよう、イエスはお怒りになった。権威ある人々が正しいことを難しくさせた時、
『イエスは細縄で鞭を作って、人々を追い出した』(ヨハネ2:14-15)。
イエスはお怒りになった。そして今、弟子たちは怒るのだ。

王なるキリストの臨在を祝って、私たちの怒りを弟子の地位(心)に繰り込むのだ。
しかし、注意深く、注意深く。なぜならイエスは本当にお怒りになったが、
すべての生涯をお怒りになって生きられたのではない。イエスは静かに祈りもされた。
イエスは愛と正義を教えられた。イエスは友と一緒に食事をされ、(ワイン)飲まれた。
最後が近付いた時、弟子たちと共に、パンをさく(聖餐)時間を作られた。
夕食の後、同志たちに指揮と統制のために戦うことを依頼されなかった。
『イエスは弟子たちを、友と呼ばれた』(ヨハネ15:15)。

被造物のために奉仕している弟子たちもまた、泣き悲しんだ。
この数週間、私は泣き悲しんでいる。敗北を嘆き悲しむ国際社会と共に私は歩んでいる。
私たちは種を消滅させ、文化を消失させている。この時、弟子たちは正義に絶望している。
荒廃している、損失によって剥奪されている。明確にしよう、イエスは泣いておられた。
友の敗北を、イエスは泣いておられた。神は神のすべての被造物を愛されている。
聖霊はすべての種が消失する度に、新たに泣いておられると思う。
この今、生物多様性と種の消失は、前例のない速度で起きている。

さようなら、アイボリービルキッツキ、さようなら、リトルアリアナフルーツコウモリ、
さようなら、イエローブロッサムパールムラサキガイ。

王なるキリストの臨在を祝って、私たちの悲しみを弟子の地位（心）に繰り込むのだ。
しかし、注意深く、注意深く。なぜならイエスは本当に泣かれ、立上がり、（人々を）
癒された。イエスは行動を取られた。イエスは絶望しておられなかった。
イエスは泣かれ、暗闇の墓へと歩いて行かれ、そして（人々を）癒された。
そうである、イエスは（人々を）癒された。

この数週間は、気候会議をバーチャルで見つめていた。多くのこの世の支配者たちを
見ていた。そして怒りを感じている、そして絶望を感じている。
権力や支配の欲望を目撃している。そして傲慢さのような権力、それは人間の欲望を
神の被造物の前に、もしくは上に置いているように思える。
私は怒りを感じている。そして絶望を感じている。

私は恐れている。私の家族、この世で成長する私の子供たちのために恐れる。
BC州のこの私たちの社会のために恐れる、すべての被造物のために恐れる。

王なるキリストの祭り、私たちの教会はまた違った権力を理解する使命を覚えて祝う。
私たちはキリストが王である唱える。私たちが描くイエスは、全能の玉座に座られ、権力
のローブで着飾っておられる。私たちは人間の王としてのイメージを通してイエスを理解
しようとしているかもしれない。支配者がどのように支配を試みているかを見ることで
イエスを想像する。君臨するイエスを想像する。

しかし玉座や権力のために、イエスが存在されたのではない。
人々の上に君臨するために、イエスがこの世に来られたのではない。
強力な統治のために、イエスがこの世を救われたのではない。
命令のために、イエスがこの世を去られたのではない。
イエスは王の地位を生きられたのではない。
イエスの権威は、違った形の権力である。
それは人と人との結び付きに見出だされる愛の権力である。
イエスは謙虚に生きられた。イエスは虚無から（私たちを）お救いになった。

勇気は恐れであると、その祈禱は言っている。わたしたちの祈りを捧げよう。

（文責長澤猛）